

条幅部自由参考

3月25日正午必着

明石春浦先生書



山茶花さざんかに雪ふりつもり 閑しずかなり 七面鳥しちめんのくぐもりのこゑ (北原白秋)



明石幸子書

浩蕩東風裏
衰世難行道

徘徊無所親
花時不稱貧

危城三面水
滔滔天下者

古木一邊春
何處問通津

(春日・李咸用)

禁梅
 開峯
 時落
 任處
 好疑
 風殘
 靄
 柳

杜審言句
 書

梅花落處疑殘雪

柳葉開時任好風 (杜審言)

梅花の散ったあたりは消え残れる雪かと疑うほど白く、柳葉はそよ風に伸びなびいている。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

竹聲松影 (許棐)

竹聲松影

竹聲松影、いずれも新春の景物である。

衆鳥高飛盡 孤雲獨去閒
相看兩不厭 只有敬亭山 (李白)

衆鳥高く飛び尽くし 孤雲独り去って閒かなり
相看着両ながら厭わざるは 只だ敬亭山有るのみ

今まで前の敬亭山にいた鳥は高く飛び尽くし、山にかかっていた孤雲も離れ去ってしまったが、山のみは静かに立っている。吾は之に對して悠然として独坐しているが、相看着厭はざるは唯だ敬亭山のみである。

送三可久歸越中 (賈島)

可久が越中に歸るを送る 賈島

石頭城下泊 北固暝鐘初
汀鷺衝潮起 船窓過月虛
吳山侵越衆 隋柳入唐疎
日欲供調膳 辟來何府書

石頭城下の泊り 北固 暝鐘の初め
汀鷺 潮を衝きて起ち 船窓 月を過りて虚し
吳山 越を侵して衆く 隋柳 唐に入りて疎なり
日に調膳を供せんと欲するも 辟し來るは何れの府の書ぞ

ゆきゆけば 朧月夜となりにけり 城のひむがし 菜の花の村 (佐佐木信綱)

半紙部規定課題A

3月25日正午必着

箏聲多在船

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

3月25日正午必着

行書

箏聲多在船

箏聲多在船

隸書

明石春浦先生書

夜泊淮陰
夜入楚家煙
煙中人未眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨水
箏聲多在船
乘流向東去
別此易經年

草書

行草書

夜になって、楚の家々の盛に煙たちのぼる地域にはいった。煙の中に、人々はまだ眠らずにいる。淮水の岸辺の眺望を極めつくし、舟中に坐したまま酒樓の前について。灯火の影は半ば水を照らし、あたりの船の中からしきりに箏のしらべがきこえる。流れに乗って東をさして行こうとするが、この地を離れて行けば、たちまちに年月が過ぎることであろう。

夜泊淮陰 項斯

夜入楚家煙
煙中人未眠
望來淮岸盡
坐到酒樓前
燈影半臨水
箏聲多在船
乘流向東去
別此易經年

夜泊淮陰に泊す 項斯

夜 楚家の煙に入る
煙中 人 未だ眠らず
望み来って 淮岸尽き
坐して到る 酒樓の前
燈影 半ば水に臨み
箏声 多く船に在り
流れに乗じて 東に向かつて
去る
此を別れて 年を経易からん

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

襟危坐而問客曰何為其然也客曰日月明星稀烏鵲南飛此非曹孟德之詩乎西望夏口東望武昌山川相繆鬱鬱乎蒼蒼此非孟德

(正) 襟危坐而問客曰、何為其然也、客曰、日月明星稀、烏鵲南飛、此非曹孟德之詩乎、西望夏口、東望武昌、山川相繆、鬱鬱乎蒼蒼、此非孟德襟を(正して)危坐し客に問うて曰く、何為れぞ其れ然るや、と。客曰く、月、明らかに星、稀に、烏鵲、南に飛ぶ、とは、此れ曹孟德の詩に非ずや。西のかた夏口を望み、東のかた武昌を望まば、山川、相い繆い、鬱鬱として蒼々たり。…。



月つき明あきらかに星ほし稀まれに、烏鵲うじやく南みなみに飛とぶ、とは、此これ曹孟德そうもうとくの詩しに非あらずや、西にしのかた（夏口を）望のぞみ、



月つき明あきらかに星ほし稀まれに、

宋蘇軾・前赤壁賦

蘇軾は宋代の景祐三年（一〇三六）十二月十九日、眉州（四川省眉山県）に生まれた。字は子瞻。東坡居士・鉄冠道人・雪浪斎などと号した。北宋を代表する文人で、詩は宋代第一とされ、文は父の蘇洵、弟の蘇轍とともに唐宋八家の一人にあげられている。書は黄庭堅・米芾・蔡襄とともに宋の四大家とよばれる北宋書壇の大御所であり、墨竹も有名である。

嘉祐二年（一〇五七）、官吏登用試験（科挙）に合格して進士となり政界に身をおいたが、幾度となく中央政界から地方転出や流罪などの憂目にあい、元符四年（一一〇二）大赦をうけて帰郷する途中に病死している。（六十五才）

彼の書は若年期には王羲之に傾倒し、特に蘭亭序をよく学んだといわれている。この時期には行・楷の作が多く、書風はいたっておとなしい。中年期は顔真卿・楊凝式を学んだ時期であり、作風は自由でたくましい。晩年の書は伝えられるものが少ない。

この前赤壁賦は、彼が黄州（湖北省）に流され赤壁に遊んだ時に作り、その翌年に書いたものと言われている。元豊六年（一一八三）四七歳の書である。孤高清烈の書で彼の正書の代表作とされている。はじめの三六文字が欠落しており、文徵明が補書している。（春濤）

3月25日正午必着

教育部毛筆



あさ
朝

がすみ
霞

中学一年

雨宮春聲先生書



か
花

えい
影

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

けい
計

かく
画

小学五年



横川春川先生書

わか
若

な
菜

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

3月25日正午必着



てん
天

ち
地

小学三年

藤田幸春先生書



しろ
白

ざけ
酒

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ひ な 小学一年・幼年



森戸春濤書

たか 高い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

3月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

おもちゃで遊んだ
木を使った手作りの

小学五年

な川の近くに生まれた
古代文明はすべて大き

小学六年

雪が消え春が訪れると
本々が芽を吹き出す

中学

流れ寄る椰子の実一つ
名も知らぬ遠く島より

一般(級位)

嘆きつゝひとり寝る夜の明くる間は
いかに久しきものとかは知る
(右大将道綱母)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

お	お
ひ	だ
な	い
さ	り
ま	さ
	ま
	と

幼年

ど	み
う	ど
ぶ	り
つ	の
た	
ち	森
	の

小学一年

た	お
ひ	り
な	が
人	み
ぎ	で
よ	作
う	つ

小学二年

ず	山
む	の
	む
赤	こ
い	う
夕	に
日	し

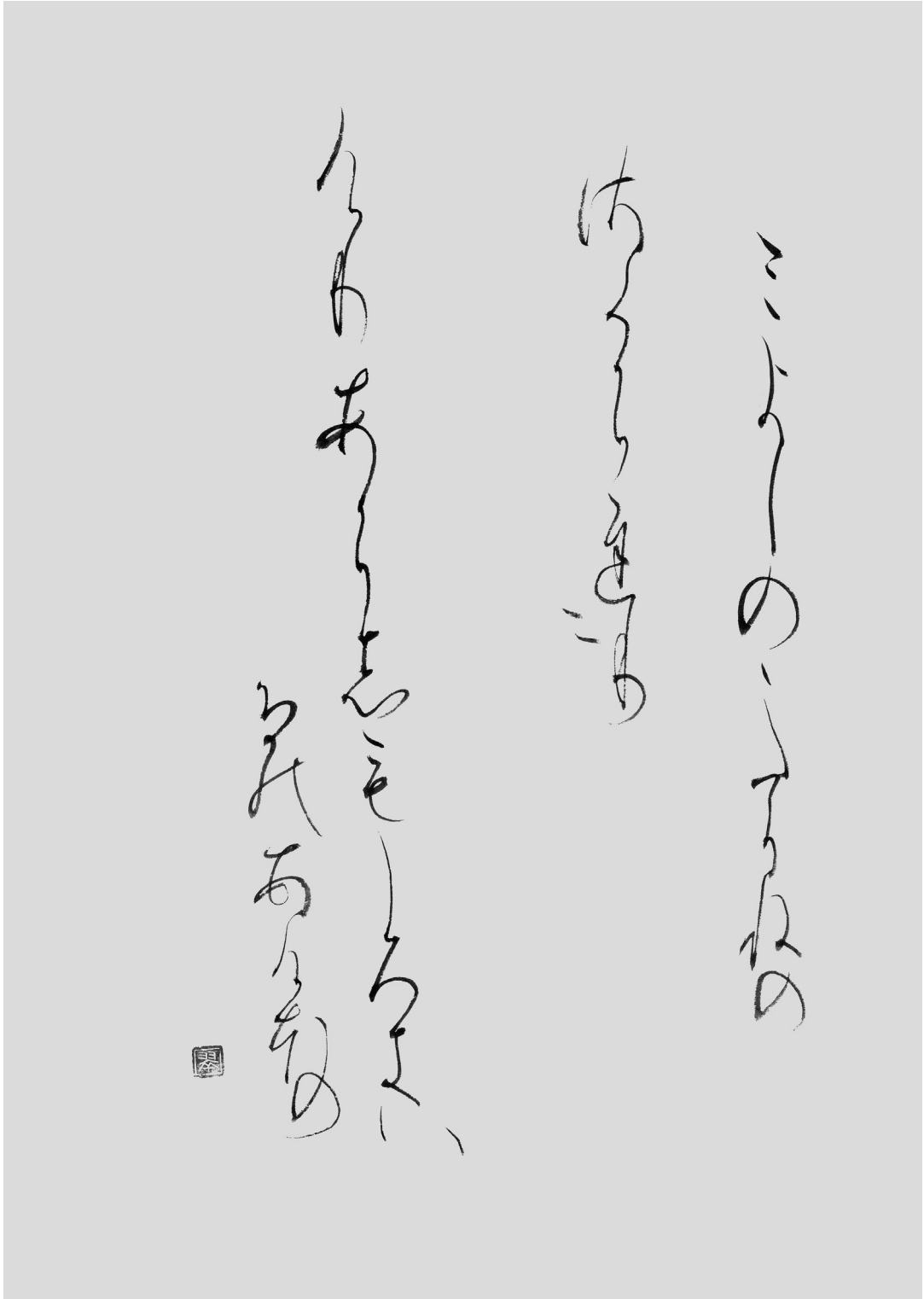
小学三年

て	気
か	持
ら	ち
考	を
え	落
て	ち
み	つ
よう	か
	せ

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



松永翠舟先生書

三みよしの、
 多たかねのさくら
 可遅りにけり
 佐あらしもしろき
 遅利二介利
 介八能介本
 (後鳥羽院)